

学校教育実践コース 社会科教育専修・経済学Ⅱ

担当教員：松野尾 裕

2つのDP（到達目標）に基づいた授業評価

社会科教育講座・松野尾 裕

1. 授業の概要

授業科目：経済学Ⅱ（後学期・木曜日・2限）

授業題目：経済教育の諸課題の探究

教職資格にかかわる事項：中一種免（社会）「社会学、経済学」・高一種免（公民）「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の選択科目

授業の目的：21世紀社会にふさわしい新しい経済生活のあり方を追究するなかで、小・中・高等学校における経済教育の今日的課題を発見し、経済教育設計を構想する基礎的力を身につけている。

授業の到達目標：

- (1)経済教育の課題を多角的に捉えることのできる知識を身につけている。
- (2)経済教育の課題を具体的に提示する短いエッセーを書くことができる。
- (3)経済教育に関する著書・論文への関心を持っている。

ディプロマ・ポリシー

教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している（知識・理解）。

授業概要：

授業はコロキウム形式（対話・討論式授業）で行う。授業の進め方は受講者の関心・理解に応じて決められる。今年度は広井良典著『創造的福祉社会―「成長」後の社会構想と人間・地域・価値』（ちくま新書、2011年）を共通テキストとして用いる。

第1回 はじめにー授業ガイダンス

第2回 テキストの紹介

第3回 発表(1)、発表(2)

第4回 討論と考察

第5回 発表(3)、発表(4)

第6回 討論と考察

第7回 発表(5)、発表(6)

第8回 討論と考察

第9回 発表(7)、発表(8)

第10回 討論と考察

第11回 発表(9)

第12回 発表(10)

第13回 討論と考察

第14回 まとめ

第15回 展望

授業の方法：受講者によるテキスト内容の発表と、教員の主導による討論・考察、関係文献の紹介等を交互に繰り返し、最終回では学習課題を展望し、最終レポートの提出を求めた。

授業時間外の課題：授業中における発表・討論のための準備を行う。また、参考文献や資料等を利用して、理解の不十分なことがらを調べる等の復習をおこない、学習課題の発見・整理に努める。授業時間外の学習に毎週おおむね2～4時間を要する。

成績評価：授業中の発表・討論内容と期末の最終レポートの内容に基づく。評価の基準は、まずテキストの内容を理解し適切な発表ができているか、及び授業内の討論を理解しているか(50点)、次いでその理解した内容を各自の考察へと発展させているか(50点)、である(計100点)。

受講者数：10人

社会科教育専修3回生 4人

人間社会デザインコース3回生 5人

人間社会デザインコース4回生 1人

授業の進捗状況及び期末レポートの課題：

授業はほぼ当初の授業スケジュール通りに進化した。期末のレポートでは、提出期限まで2週間をとり、授業の内容を十分に振り返ったうえで、各自の問題関心に即して論点を絞りA4用紙1～2枚程度にまとめるよう指示した。

2. 授業評価法

教育学部が作成した「学生によるDPと対応づけた授業評価調査」のアンケートを用いた。

学校教育教員養成課程のDP

1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

2. 学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。
3. 子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。
4. 実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた学習ができる。
5. 教職に対する使命感や責任感を身につけ、教育的愛情を持って児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

総合人間形成過程のDP

1. 充実した生涯学習社会を築くため、生涯学習に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。
2. 現代社会で生じているさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。
3. 生涯にわたる学習を支える教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。
4. 生涯学習に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。
5. 社会人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

質問

この授業は、あなたが所属する課程のDP 1～5に、どの程度対応していましたか。それぞれのDPについて4段階で評価し、該当する○を鉛筆で塗りつぶしてください。

1 対応していなかった、2 どちらかといえば対応していなかった、3 どちらかといえば対応していた、4 対応していた

3. 授業評価結果

受講者10人のうち8人(社会科教育専修4人、人間社会デザインコース4人)が回答した。

学校教育教員養成課程 社会科教育専修

	1	2	3	4
(DP 1)	0	0	1	3
(DP 2)	2	0	2	0
(DP 3)	1	3	0	0
(DP 4)	0	1	3	0
(DP 5)	1	0	3	0
計	4	4	9	3

「対応していた」「どちらかといえば対応していた」と思われる具体的な活動についての自由記述。

DP 1に関して：本の内容が地域に関わる内容であり、その読解。

DP 2に関して：地域学習に関わるキーワードであるコミュニティの考察。

DP 5に関して：人間の考察という内容が本の中にあつたから。

総合人間形成過程 人間社会デザインコース

	1	2	3	4
(DP 1)	0	0	1	3
(DP 2)	0	0	1	3
(DP 3)	0	1	3	0
(DP 4)	0	1	1	2
(DP 5)	0	0	3	1
計	0	1	9	9

「対応していた」「どちらかといえば対応していた」と思われる具体的な活動についての自由記述。

DP 2に関して：文献の内容がとても新しい。

DP 5に関して：現実的な活動内容の紹介が多い。

5. 考察

回答者は社会科専修が4人(全員回答)、人間社会デザインコースが4人(回答率66%)であった。

本科目の中心的なDPは、学校教育教員養成課程のDPのうち「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している(DP 1)」である。社会科専修4人のDP 1に関する評価結果は、「どちらかといえば対応していた」が1人、「対応していた」が3人であり、授業のねらいはおおむね達成されたといえる。総合人間形成過程のDPには直接対応していないが、同課程のDP 1を一番近似したものと見なすと、人間社会デザインコース4人のDP 1に関する評価結果は、社会科専修と全く一致した。

DP 2とDP 3に関しては、社会科専修での評価が低いのに対し、人間社会デザインコースでは評価が高く、対立的な傾向を示した。

DP 4とDP 5は社会科専修の学生も人間社会デザインコースの学生も、比較的高い評価をした。

DP 2、DP 3は教員養成課程が学校現場で役立つ課題の発見や教材の工夫に関する事項であるのに対し、総合人間形成課程では広く現代社会の課題や生涯学習における技能や表現力に関する事項であり、今回採用したテキストの内容から、上記のような評価結果になったと考えられる。

ひとつの科目にDPを異にした複数の課程の学生が受講する場合、どういう形でDPを満足させるか。授業づくりの工夫などにさらに検討を要する課題がある。